

1.実践報告

学年	教材	検討内容
6年 H先生	「海の命」	<p>一場面から子どもたちと問題作りを行い、その中から、『(1)「海のめぐみだからなあ」という言葉の意図について』『(2)父がロープを体に巻いたままこときれていた理由について』考えた。(1)に関して、“自分のおかげ”であるという考えと、“海のおかげ”であるという考えが子どもたちから出てきたが、「海のめぐみだからなあ」という言葉に着目し、「めぐみ」「だから」「なあ」のように、その言葉を細かく切って考える必要がある。3段落や4段落に出てくる「ても」に着目して、子どもたちと例文を作り、「ても」が逆接を表していることを確認したところは良かった。(2)に関しては、父が”自分で巻いたのか“、“自分で巻いていないのか”で、子どもたちから2つの意見が出てきたが、文中に「巻いた」「体につきさした」と書かれているため、その言葉を根拠にして、“父が自分で巻いた”ということを押さえる必要がある。</p> <p>子どもたちが意見を言う中で、問題に対して端的に話すよう、そのような話し方を身に付けさせる必要がある(まず結論を言ってから、その後理由を言う)。クラス全員が話し合いに参加できるように、発問内容を工夫する必要がある。</p>

2. 授業構想

学年	教材	検討内容
4年 I先生	「初雪のふる日」	<p>53段落の「これを聞いて、うさぎたちはすっかり喜んで」という文に着目し、“雪うさぎたちは、なぜ女の子の話を聞いて、すっかり喜んだのか?”を大問題にして、授業構想を考えたが、喜んだ理由を先に考えるのではなく、「喜ぶ」の意味についてまず確認する必要がある。「喜ぶ」ということが“満足”や“うれしい”ことであり、それは“願いが叶った”ということでもあることを押さえる。そこから、白うさぎの叶った願いについて考え、54段落で歌の内容が変わったことから、白うさぎの願いとは、自分たちの体の白さは「雪の白」ではなく、「春の色」であるということに気づかせる必要がある。</p> <p>物語を読み始めて思ったこと(初発の感想)が、授業で読み進める中で、がらっと変わるように、しっかり問題作りを行う必要がある。</p>